ぜんせき
THE ZENSEKI

第7535号　月・水・金発行（祝日除く）　組合員 月1,728円　組合員外 月1,944円（消費税込）

4月13日（水曜日）2016年（平成28年）

発行所
全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp

昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

石油協会2015年度信用保証実績

円滑な資金調達に有効

積極的活用呼びかけ

全国石油協会はこのほど、2015年度信用保証実績をまとめた。保証件数は前年度に比べ32件減の322件、保証金額は56億3440万円となった。14年下期以降の原油価格の急落による卸価格の値下がりで、運転資金に対する資金需要は減少傾向にあるが、災害時の石油製品安定供給を支える中核SSの整備をサポートする中核給油所等資金が2014年10月末をもって終了していることから、この件数を除くとほぼ前年並みの保証件数・保証金額となる。全石連並びに石油協会では、円滑な資金調達に向けて同事業の積極的な活用を呼びかけている。

2015年度信用保証実績　（単位：万円）

	保証件数	保証金額
運転資金	9	7,430
小口運転資金	37	47,164
小口設備資金	10	5,806
災害保証資金	0	0
地エネ整備資金	0	0
中核給油所資金	－	－
セーフティネット資金	258	491,140
災害特別資金	8	11,900
合計	322	563,440

保証件数の内訳を見ると、セーフティネット資金が258件、49億1140万円となったほか、小口運転資金が37件で4億7164万円、小口設備資金が10件で5806万円などとなっている。

一方、代位弁済件数は47件となり、弁済額は4億9369万円となった。

石油協会では、災害時などのエネルギー供給の〝最後の砦〟として、地域の石油製品の安定供給を支えている石油販売業者の円滑な資金調達を支援していくため、2012年10月に信用保証制度の抜本的な改正を実施。複雑かつ多岐にわたっていた保証制度を整理・統合したうえ、さらに制度内容を強化・拡充した。

このうち、07年に急激な資金繰り難によるSSの経営悪化に対処するため創設したセーフティネット資金については、12年9月末をもって一旦終了したが、石油販売業者の資金需要や資金繰りに万全を期すため、同年10月以降は、期限を定めることなく実施していくこととした。

セーフティネット保証は、借入限度額が1SSまたは売上高3億円未満の事業者は2500万円となっているほか、運営給油所数・売上規模で最大1億5千万円まで借り入れ可能。また当初の借入金に対して、返済した分を再度借入することもできる。保証人も代表者のみとなっている。

ガソリンなどの需要減を背景とした各地での過当競争の激化によって、石油販売業者は深刻なマージン不足に陥るなど、SSを取り巻く経営環境は厳しさを増しており、経営高度化や経営改善に向けた資金需要、資金繰りなどに対し、きめ細かく対応している石油協会の信用保証事業に注目が集まっている。

制度内容や資金調達に関する問い合わせは、加入する47都道府県の石油組合または石油協会（03－5251－0460）まで。

総務省・3月 G小売平均111円強

総務省が先ごろ発表した「自動車ガソリン」の81都市別3月小売価格調査結果（消費税込み）で、全国平均は前月比2・1円安の111・1円と8ヵ月連続で前月を下回った。

最安値は前月比4円安の高知の102円。最高値は2円安の佐賀の123円。100円台が14都市から33都市に増加。110円台が61都市から45都市に120円台が6都市から3都市に減少。前月比は10円安の109円となった徳島、8円安の110円、108円となった長岡、伊丹など64都市で値下がり。

関東北陸以東の東日本39市平均は1・9円安の110・1円、東海以西の西日本42市平均が2・1円安の112・1円となり、西高東低差は2円と前月から0・2円縮小した。

15年灯油購入量194リットル

18市が健闘、大都市では苦戦

総務省が先ごろ発表した2人以上世帯の2015年家計統計によると、灯油購入量は全国平均で前年比6・3%減の194・4リットルと、3年連続で前年実績を下回った。原油価格の急落による小売価格の値下がりで、パワフルな暖房性能に加え、コストメリットも加わった灯油だが、暖冬の影響で電気・ガスへの燃料転換の動きに歯止めがかからず、需要減が顕在化しつつあることが明らかとなった。内需が縮む厳しい市場環境の中で、18市が前年を上回り健闘したものの、神戸（42・7%減）、千葉（34・3%減）、東京23区（28・7%減）など、少量都市での需要減に拍車がかかっていることが浮き彫りとなった。平均単価は22円安のリットル78・05円と10年（72・36円）以来5年ぶりの低水準となった。平均単価は下落したものの、購入量の減少が響き支出額は5781円安の1万4798円に下落し、10年（1万6913円）以来5年ぶりに2万円台を割り込む低水準となった。

都道府県庁所在地と政令指定都市の計52市別（表参照）で、灯油購入量の最多は15年も青森の1040・6リットル（前年比4%減）。次いで②札幌（1002・1リットル）③秋田（693・4リットル）④山形（621・9リットル）⑤盛岡（614・6リットル）の順。最少は大阪の20・3リットル（11・9%増）となった。次いで②東京23区（23・6リットル）③神戸（26・5リットル）④横浜（38・8リットル）⑤千葉（48・5リットル）の順。

東日本大震災発生前の10年から15年までの推移をみると、10年の235・4リットルから11年に240リットル、12年も243・1リットルと増加。ただ、小売価格の値上がりによる消費者の買い控え・節約指向の高まりで13年は229・4リットルに減少、14年も207・4リットルと前年割れとなった。小売価格の値下がりで、需要増が期待された灯油だが、暖冬という天候要因にも揺さぶられ、今シーズンは期待外れの商戦となった。

主要都市の灯油世帯購入量（リットル）

（太字斜字は少量5市、太字は多量5市）

	2014年	2015年	前年比
札幌市	**977.5**	**1,002.1**	2.5%
青森市	**1,084.3**	**1,040.6**	-4.0%
盛岡市	**621.6**	**614.6**	-1.1%
仙台市	348.9	274.9	-21.2%
秋田市	**886.3**	**693.4**	-21.8%
山形市	**607.2**	**621.9**	2.4%
福島市	424.7	431.7	1.7%
水戸市	162.5	162.2	-0.2%
宇都宮市	203.6	172.8	-15.1%
前橋市	130.0	183.0	40.8%
さいたま市	96.6	83.3	-13.7%
千葉市	73.8	***48.5***	-34.3%
東京都区部	***33.1***	***23.6***	-28.7%
横浜市	***35.6***	***38.8***	9.0%
川崎市	***44.1***	50.7	15.1%
相模原市	124.6	116.2	-6.7%
新潟市	315.3	295.9	-6.2%
富山市	383.9	376.7	-1.9%
金沢市	284.5	271.1	-4.7%
福井市	245.3	196.9	-19.7%
甲府市	204.8	173.8	-15.2%
長野市	351.6	311.5	-11.4%
岐阜市	160.6	135.4	-15.7%
静岡市	67.6	56.5	-16.4%
浜松市	109.9	113.4	3.2%
名古屋市	74.9	58.1	-22.4%
津市	169.0	129.3	-23.5%
大津市	120.1	113.0	-5.9%
京都市	57.1	48.8	-14.6%
大阪市	***18.2***	***20.3***	11.9%
堺市	51.6	50.3	-2.5%
神戸市	***46.2***	***26.5***	-42.7%
奈良市	70.1	83.7	19.5%
和歌山市	130.7	142.8	9.3%
鳥取市	199.2	224.1	12.5%
松江市	172.6	177.3	2.7%
岡山市	94.2	76.6	-18.6%
広島市	113.0	102.5	-9.3%
山口市	158.3	180.1	13.8%
徳島市	101.1	124.5	23.2%
高松市	158.9	117.5	-26.1%
松山市	110.3	70.6	-35.9%
高知市	97.4	78.2	-19.8%
福岡市	61.2	65.4	6.8%
北九州市	119.0	114.0	-4.1%
佐賀市	143.1	144.2	0.7%
長崎市	74.4	72.2	-3.0%
熊本市	119.0	74.2	-37.7%
大分市	114.9	74.7	-34.9%
宮崎市	120.6	96.8	-19.7%
鹿児島市	61.7	82.9	34.4%
那覇市	52.2	68.6	31.4%
全国平均	207.4	194.4	-6.3%

論説

ORVRが効果的かつ合理的

SSで販売している燃料油のうち、SS業界が直面しようとしているVOC問題の対象となるのは、ガソリンだけである。これは、ガソリンの揮発性の高さに起因する。揮発性とは、常温で放置しておいても気化（蒸発）する性質のことで、ガソリンが気化して蒸気となったものがガソリンベーパー。ガソリンの引火点が軽油の45℃に対してマイナス40℃以下と非常に低いのも、揮発性の高さによる。

SSの地下タンクの中でも気化は進むため、時間が経つと気層部（液体で満たされていない部分）はベーパーで満たされていく。そこにローリーからの荷卸しによりガソリンが一気に注油されると、気層部は圧縮され、満ちていたベーパーは通気管を通って外気に放出される。通気管にホースをつないでベーパーをローリーに戻す、いわゆるステージⅠがその対応策であり、首都圏など大都市圏を中心に導入が進んでいる。

一方、自動車の燃料タンクの中でもガソリンの気化は刻々と進行している。SSでガソリンが給油されると、燃料タンク内の気層部に満ちていたベーパーは給油口から一気に外気に放出される。現時点で焦点となっているのは、この、給油時に燃料タンクの給油口から放出されるベーパー対策であり、計量機のノズルで回収するのか、自動車の燃料タンクに回収装置を設置するのかで議論が分かれているという。

ノズルで回収する方法、いわゆるステージⅡは、計量機ごと最新型と交換する必要があるため、義務化されるとISS平均で1千万円前後のコスト負担を強いられる。第2の地下タンク問題といわれるように、再びSSの撤退が急増するのではないかと危惧する声がにわかに高まっているのはそのためだ。

燃料タンクからは、走行時や駐車時にもベーパーが漏出しているといわれ、ステージⅡではベーパーの完全な回収が不可能であることは明白だ。燃料タンク側に回収装置を設置する方法（ORVR）が効果的かつ合理的であることは議論の余地がないはずだが、それが議論になり、しかもSS側が不利になっているところに、行政の〝思惑〟が見え隠れする。

しかし、SS業界にとっては死活問題である。〝思惑〟で左右されては堪らない。筋を通すために、そして生き残るために、組織力を結集し、でき得ることをすべて実行したい。

経営部会

精販納得感ある卸指標期待

VOC負担に危機感

全石連経営部会（浜田忠博部会長）は先ごろ開いた会合で、「経営相談室」の設置を了承した。13日開催の正副会長会議などに諮ったうえ、早ければ5月2日から受付をスタートする。また、環境省・中央環境審議会で揮発性有機化合物（VOC）対策について、SS業界にさらなる負担を課す動きがあることから現状を報告するとともに、元トヨタ自動車専務取締役で現在、中小企業基盤整備機構理事長を務める高田坦史石油協会理事の『日本を取り巻く環境とその対応～トヨタから学んだこと～』と題する講演を行った。

浜田部会長（写真）は「業界は非常に厳しい。3月中旬には原油価格が底を打って先高になると考えたが、産油国の問題から再び下落傾向にある。さらに一部の元売が水面下でシェア拡大を図り、各地で価格紛争が起きている」などと述べたうえで、「総合資源エネルギー調査会において、適切に需給を反映した卸価格指標の構築と不透明な商慣習の是正が政策課題の1つとされた。夏以降、透明かつ公正な仕切り指標構築への取り組みが本格化する見通しで、目指すのは精販双方が納得できる仕組み」と訴えた。

新設する『経営相談室』は、内需減や販売マージンの低下によってSS経営がひっ迫する中で、組合員が少しでも事業の資産価値を損なわないよう、それぞれが抱える経営問題に応えるのが目的。具体的には自社株の購入・売却などを通じた事業統合や会社分割、さらには事業承継、負債整理の相談などを行う。中小企業への各種支援制度を利用するほか、会計士、税理士、弁護士など外部有識者と連携して問題解決にあたる方針。同室は経営部会傘下に設置されるものの、運営は守秘義務の観点から事務局による独立型とする。

さらに会合では、環境省の中環審・自動車排出ガス専門委員会が現在、給油時などに発生するガソリンベーパーの低減対策を検討しているが、その議論がここにきて、SSに多額の追加負担が発生するステージⅡ方式（計量機にベーパー回収装置を設置）を早期に実施する方向に傾いていることが報告され、危機感が提示された。

G卸 昭シ据置きEMG2円安

昭和シェル石油は13日からのSS向け週決め仕切りを通知した。特約店筋によると、前週比でガソリン、灯油、軽油、A重油はいずれも据え置き。

◇　◇

EMGマーケティングは12日からの系列向け仕切りを通知した。代理店・特約店によると、前週比でガソリンが2円、軽油が1・5円のそれぞれ値下げとした。前週の大幅値上げから一転して反落した。

3月中旬CIF 0.6円高の22円強

財務省

財務省が8日発表した3月中旬原油CIF価格は、前月比2・4ドル高のバレル31・37ドルと9ヵ月ぶりに前月を上回った。円建ては為替が1ドル113・25円と円高基調で推移し値上がりが圧縮され、632円高の2万2348円。

灯油過少販売 またもや発生

東京シェルP

東京シェルパック（本社・世田谷区）は9日、多摩営業所に所属する社員1人が3月中旬に2件の顧客に対し過少販売を行ったことが判明したと明らかにした。同社は2015年の灯油過少販売不正を受け、再発防止に努めてきたが、再び発生したことをホームページで「重ねてお詫び申し上げます。不正行為を行った社員に対して、法的措置を検討しております」とした。

作文入選作品集を制作 石連

石油連盟はこのほど、2015年度第17回「地球・夢・未来―石油の作文コンクール」（文部科学省、全国小学校社会科研究協議会後援）で、個人賞上位入賞者20人の作品をとりまとめた入選作品集（写真）を制作した。

同コンクールは小学校4～6年生を対象に「調べてみよう石油の活躍」をテーマに募集を行い、海外10ヵ国・地域の日本人学校を含む277校から397作品の応募があった。〝石油〟の資源・エネルギーとしての重要性や、日常生活や災害時に欠かせないエネルギー源であることを痛感させられる作品が網羅されている。

厳正な審査の結果、最優秀作品賞（文部科学大臣賞、石油連盟会長賞）は会津若松市立謹教小学校5年・鈴木心渚さんの「未来を創る石油～オリンピックへ～」が見事受賞した。

ポンプあいら・れ・ど

▼4月になって最初の土曜日に日ごろから付き合いのある仲間と花見に出かけた。過去の花見では、底冷えのする寒い中での宴会を経験したことがあったので、少し厚着して出かけたが、幸いなことにその日は風もなく、暖かい中での花見となった▼満開の桜の下でお互いに日ごろ思っていることや直近の話題などを話した。その中でドライブ好きの友人が「最近はガソリンも安いので、遠出することも多い。このままの値段でいくのか」とたずねてきた。ちょうど、仕切価格が上がってきている時だったので「少しは値上がりすることもある。原油価格次第」と答えた▼SS業界では仕切価格の上昇に対応するために、値上げに踏み切るところも増えてきている。こうした動きの中にあって、一部のPBSSなど量販店が低価格販売を続けているためにコスト転嫁は難しく、苦しい環境下に置かれている地域も散見される。そうでなくてもマージンが低下している時だけに「どうやっていけばいいのか」と低価格地域の経営者は頭を痛めている▼最近ではJAの低価格販売が大きな問題となっている地域もみられ、「JAが打ち出す価格では赤字販売となる。これだけは避けたいが、価格差が大きければ顧客も離れていく」と、適正利潤の確保による採算市場の形成を強く望んでいる。

きょうの紙面

2面　関東・依然残る量販店3桁割れ
■DATAコーナー＝原油価格、石油製品先物情報
3面　関東版・新潟・栃木・灯油アンケ結果/大阪版・新電力事業着手へ
4面　市況概況／月間DATA

依然残る量販店3桁割れ

広がる中小SSとの格差　東関

同一商圏で量販店と地場ＳＳとの価格差が拡大し続けている（写真は千葉県松戸市内）

原油価格の上昇に伴う元売各社の相次ぐ仕切り値上げによって、関東地区のレギュラーガソリン市場も上昇しつつあるが、量販店などは依然として廉売攻勢を続けており、地場中小ＳＳとの価格差が拡大し続けている。今後の原油価格情勢は不透明感が強く、急変も予想されるだけに、生き残りをかけて適正利潤の確保による採算経営の重要性を訴える声は根強い。

相次ぐ仕切り値上げによって、関東各地で100円台以上の看板価格を掲示するSSが急速に増加しているが、地域によっては、依然としてプリペイドカードやクレジットカードなどで廉売攻勢を仕掛けている量販店も散見され、茨城県内の販売店社長は「需要が低迷している中で、前年並みの販売量を維持しようとしているのだろう。彼らにとって数量を落とすことは客数を減らすことと同じことなので、無理してでも安く売ろうとしているのではないか」と指摘する。

地域によっては20円以上の価格差が出ているところもあり、千葉県内の販売店社長は「当社の場合、いまの仕切価格を考えると、10％の利益を上乗せすれば120円台の販売価格になる。2桁の価格なんてとても出せないし、そんなことをしたら即倒産だ」と訴える。

原油価格は乱高下を繰り返している。今後の動向次第では、仕切りがさらに大きく変動する可能性も否定できない。茨城県内の特約店幹部は「原油価格が安定することが望ましいが、上昇した分を抑えられるほど、中小SSの経営体力は強くない。利益をきちんと上乗せしていくべきだろう」と、採算経営の必要性を訴える。

富谷店は値上げ　かみのやま店下げ
コストコ対応二分

【山形・宮城】コストコかみのやま倉庫店併設SSは9日にレギュラー価格を1円下げて104円とした。ハイオクは114円、軽油は78円、灯油は44円で据え置き。一方、コストコ富谷店併設SSは全油種を2円値上げした。レギュラーは102円、ハイオクは112円、軽油は78円、灯油は44円。

近畿で採算機運

業転は弱含み　GW正念場に

【大阪】近畿地方のセルフSSを中心としたガソリン価格がコスト上昇に伴い、110円以上の価格帯に入ったが、早くも正念場を迎えている。各地で5円以上値上げするSSが増えているが、業転市場の大幅下落の情報も流れ、プライベートブランドSSの攻勢を気にするSSも増えている。間もなく連休商戦を迎えることで需要期をいかに乗り切るかへの意識も高まりをみせている。

すでに110～2円のガソリン現金価格が中心となっている近畿地方。激戦地を除き、コスト上昇局面を真剣に受け止めるSSがほとんどで、採算意識は高まっている。だが、これまで急速に格差が縮小してきた業転と系列の仕入れ格差が、ここにきて急速に拡大する傾向にあり、業転市場を注視する業者からは「今後、この動きが大きな問題になる」との声も上がっている。

商社も「これからは業転が値下がりする予測。連休商戦は相当市場が混乱するはず」と指摘、市場の先行きに警戒感を示唆する。

九州は格差縮小

業転アップで量販店も上げ

九州地域のガソリン〝価格差〟が縮小する傾向が一段と鮮明になって来た。業転価格が上昇し、系列玉との価格差が減少していることが大きな要因とみられるが、今後の見通しについては原油価格や円高なども絡み不透明感が広がっている。

九州地区のガソリン、軽油の価格はこれまで県、地域によって大きな開きがあった。かつては「九州で最も低い価格」と言われてきた熊本県と比較的価格が安定している地域とでは10～20円もの価格差があった。

価格差縮小は、ガソリン価格が軟化した今年に入ってから徐々に顕在化、4月に入ってから仕切価格の上昇を受けて、各地で3～6円値上がりした。福岡県では中心部で117円、平均値も110円前後が大勢。佐賀県でもセルフで112円、フルでは118円が多い。宮崎県でも宮崎市内を中心に112円前後になった。熊本県も5円前後上昇し109～112円に。同県内の市況に大きな影響を与えている量販店もほぼ同様の価格帯に近づいている。このため九州全体が110～117円の〝ボックス圏内〟で推移している。

低価格競争が激しい地域も点在し、100円台前半も残っているが、全体的には〝少数派〟になっている。

この要因として福岡、佐賀両県のSSは「かつては業転と系列の格差が7～10円近くあったが、最近は3円前後になっている。このために業転を仕入れてもあまり安く売ることができなくなっているのでは」と言う。また「元売が業転供給を減らしていると思われる。かつてのように市場に業転があふれているという状態ではないようだ。このために業転価格が上がり、結果的に系列との格差が縮小しているのではないか」とみている。

しかし、今後の見通しについては、SSは「原油価格の見通しがはっきりしないうえ、円高傾向も見える。元売が生産を増やせば業転価格が下がる可能性もある」という懸念をもらす。

熊本県でも値上げするＳＳが増えてきた

伝統を引き継ぎながら　行動力

奈良石商副理事長　森本和佐子氏

2年前、近畿2府4県石油組合で初の女性副理事長に選任された森本和佐子社長（森本石油・コスモ系）。奈良県橿原市の老舗企業トップから、奈良石商の執行部、そして今年、神戸市で開催される全石連総会の実行委員会委員にも選任され、忙しい日々を送ってきた。

副理事長となった際、同石商の松本安司理事長は「男女の区別なく、必要だからお願いした」というほど、行動的で組織への貢献度は高い。

本社のある橿原市の市名は神武天皇に由来するともいわれ、橿原神宮を中心に発展してきた歴史ある街。森本石油も県下でシェアの高いコスモグループでも最大手企業の1つに数えられる。

だが橿原市はいま、県外業者SSやJAなどの攻勢で、地場業者のシェアが圧迫されているのも事実。その中で地場企業としてSS、中間3品、潤滑油など幅広く実績を上げる森本石油は組織にとっても大きな存在。

歴史ある街の地場企業、奈良県の石油販売業の代表でもある森本社長だが、気負いは全く感じない。「小さいときから石油に慣れてきたから」と微笑む。

ズームアップ　東西南北

粟国島・渡名喜島現状報告
情報共有の必要性確認
沖縄・離島流通合理化検討委

沖縄県粟国島と渡名喜島を対象として調査・検討を重ねてきた「離島石油製品流通合理化・安定供給検討委員会」＝代表団体・沖縄石商（濱元清理事長）は先ごろ、検討結果をまとめた。

「関係者が情報を共有することで効率的な輸送が可能」と具体的に提言、関係者は実現に向けて取り組みを開始した。

粟国島には2SSがあり、ガソリンは沖縄本島からドラム缶で輸送している。週2回のLPガスの輸送日以外の日しか運べないため、1便あたり400㌔しか仕入れることができない。また、沖縄～粟国島航路は悪天候に伴う欠航が多く、観光シーズンに加えて公共工事によるガソリン需要増のために在庫がなくなり、販売制限したこともある。

一方、渡名喜島のSSはLPガス販売兼業の1店だけで、久米島からドラム缶で仕入れている。需要減少に伴って経営環境が悪化している中、年中無休で営業するなど事業継続に不安がある。

こうした状況を踏まえて同石商、県、両島のSSなどで構成する検討委員会を組織し、現地調査、意見交換した。

この結果、粟国島にガソリンを輸送するフェリーに毎便800㌔（ドラム缶4本）を積めば島内の販売量を上回る量を供給できることが判明。このためフェリーを運航する役場船舶課を窓口として2SS、LPガス販売店が危険物輸送についての情報を共有し、空いたスペースを有効活用することで、安定供給が可能とした。SS、役場、LPガス販売店はこの提言を「コスト増を伴わない安定供給対策」と評価、関係者間の情報共有のルール化を検討したうえで、早急に取り組むことにした。

渡名喜島では「安定供給のためには関係者間の情報の共有が重要」と指摘。渡名喜村が主催して毎年4月、島内関係者が参加し、石油流通に関する情報の共有、問題の早期発見、問題が生じた際の対策を検討することにした。

静岡・東部会　長期的視野が大切

【沼津＝静岡】静岡石商東部会（佐野裕永部会長）はこのほど会合を開催し、全国石油協会が実施している、SSの経営安定化に向けた設備導入を支援する経営安定化促進支援事業と、中小石油販売業者などによるタンクローリーの購入支援・共同タンク運用などを後押しする灯油配送合理化促進支援の予算額、募集期間などを報告し、組合員への周知を要請した。両事業とも21日までに同組合に申請書類の提出を求めることとした。また、日本郵便が地域実情に合わせ、SSにゆうパック取引所を委託する事例を紹介した。

佐野部会長（写真）は「エネ庁の長期需要見通しでは、今後5年間でガソリンは年平均で2・5％減少すると」しており、1割以上の需要減が想定される。その中で、販売競争が激しくなり、お客の奪い合いが進めば、大きく落ちこむ販売店もでてくる」としたうえで、「需要減少に見合ったマージンを確保せざるを得ない。油外収益での補てんには限界がある。長い目で考え、石油製品で利益を出すことを考える必要がある」と訴えた。

灯油配達平均0・1円下落

札幌市モニター

【札幌】札幌市消費者センターが8日に実施した石油製品小売価格調査結果によると、ホームタンク向け多量配達灯油（200㌔程度以上）の平均価格は㌔57・25円で、3月25日調査時から0・1円値下がりした。

調査店100店（うち取り扱い休止・なし23店）の最多価格は57円（26店）。最低は52円（1店）、最高は68円（1店）。

ガソリン（現金）はフルが114円、セルフが110円。同じく軽油は97円、93円で両油種ともフルで3円、セルフで2円値上がりした。

配達灯油価格3円値上げ

山形・生協共立社

【山形】生協共立社は11日から配達灯油価格を㌔3円上げて64円（18㌔1152円）とした。おまかせ登録価格は63円（1134円）。

広島メガソーラー発電所が送電開始

JXエネルギー

JXエネルギーはこのほど広島市内の「広島メガソーラー発電所」（写真）で送電を開始した。発電出力は1・2MW、敷地面積は1・7万平方㍍で、中国電力に売電する。

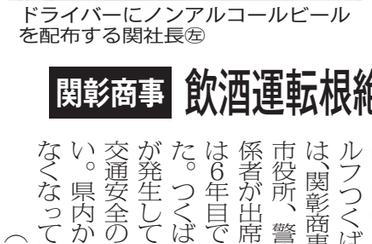
同社はJXグループの遊休地を活用したメガソーラー発電事業に積極的に取り組んでおり、今回が11ヵ所目、発電出力は合計29・6MWとなる。

都内で2016年度キックオフを開催

キグナス

キグナス石油は先ごろ都内で「2016年度キックオフ」を開催した。当日は若澤雅博社長のあいさつに始まり、2016年セールスプロモーションや春のオイルフェアの企画説明を行ったほか、大手インターネット関連企業である楽天からは幹部を招き、楽天ポイントの戦略について解説を受けた。また、講演会として、MBPの池永和穂氏の「SS業界のニッチ戦略～今、取り組むべき課題～」、バグジーの久保華図八氏の「ロイヤルカスタマーを創出できるお店作り」をテーマに、顧客満足度向上に向けた取り組み事例などを紹介した。

関彰商事　飲酒運転根絶へ店頭で啓発活動


ドライバーにノンアルコールビールを配布する関社長㊧

春の全国交通安全運動（6～15日）に合わせ、茨城県内各地でも交通安全を呼びかけるイベントが行われる中、関彰商事（茨城県筑西市、関正樹社長・JX系）では11日、毎年恒例となっているSS店頭でのノンアルコールビールの配布を通じて、交通事故防止を訴えた。

配布はキリンビールとタイアップして行われ、関彰グループ52SSで、キリンフリーと、ハンドルキーパー運動（複数人で飲食店に行く場合、事前に飲酒しない人を決める運動）の啓発チラシも配り、飲酒運転根絶を呼びかけた。

セレモニーが行われたつくば市内のDr・Driveセルフつくば研究学園SSでは、関彰商事やキリンビール、市役所、警察署など多数の関係者が出席。関社長は「配布は6年目で通算8回目になった。つくば市内でも毎日事故が発生しており、社内外でも交通安全の徹底を呼びかけたい。県内から事故が少しでもなくなってほしい」と訴えた。

（つくば＝茨城発）

昭シェル人事

▽石油事業本部理事中央研究所長（石油事業本部中央研究所長）長富悦史▽同・リテール販売部付ライジングサン出向（石油事業本部近畿支店長）中西武史▽統合準備室担当副室長（同・営業企画部長）岡田悟（4月1日付）

東燃ゼネ人事

▽電力事業本部電力販売統括部長（電力事業部電力販売部長）古澤利信▽EMGマーケティング広報CSR統括部CSR・コミュニケーション推進部長兼CSRグループグループリード（EMGマーケティング広報渉外統括部CSR推進部長）桂美穂（4月1日付）

▽中央研究所化成品研究部部長（中央研究所戦略企画・調査部主席研究員）伊藤直樹▽経営企画統括部渉外部部長（EMGマーケティング広報渉外統括部渉外部部長）七島正人（4月1日付）

▽EMGマーケティング購買統括部調達企画管理部部長（供給本部供給計画統括部原油計画室スタッフオブティマイザー）渡邊洋毅（5月16日付）

田中豊吉氏

（元東京石商大田支部役員、田代油店社長・JX系）

9日死去、98歳。通夜は14日午後6時から、葬儀は15日午前10時30分から、平和の森会館（大田区平和の森公園2－3。電話＝03－3766－4250）で執り行われる。喪主は長男で同社取締役の郭之氏。

DATAコーナー

■石油先物市場・4／12

△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：￥／ＫＬ

東京商品取引所（京浜海上：1枚＝50ＫＬ）　中京石油市場（伊勢湾油槽所：1枚＝20ＫＬ）

14：30現在	前日比	限月	14：30現在	前日比
		ガソリン		
（前日出来高2,596枚）			（前日出来高11枚）	
40,900	Δ580	⑤限月	39,250	Δ100
41,160	Δ540	⑥限月	39,750	Δ250
41,010	Δ680	⑦限月	39,650	Δ500
40,860	Δ670	⑧限月	40,000	Δ900
40,180	Δ700	⑨限月	39,000	Δ340
39,280	Δ670	⑩限月	38,350	Δ350
		灯油		
（前日出来高316枚）			（前日出来高7枚）	
34,820	Δ830	⑤限月	－	－
34,780	Δ640	⑥限月	－	－
35,120	Δ870	⑦限月	35,000	0
35,670	Δ700	⑧限月	35,500	▲310
36,500	Δ840	⑨限月	－	－
37,490	Δ800	⑩限月	37,500	Δ500
		軽油		
（前日出来高0枚）				
－	－	⑤限月		
－	－	⑥限月		
－	－	⑦限月		
－	－	⑧限月		
－	－	⑨限月		
－	－	⑩限月		

原油指標

			前日比
国内指標	$／B	38.03	(Δ1.44)
	￥／KL	26,098	(Δ982)
WTI	$／B	40.36	(Δ0.64)
	￥／KL	27,697	(Δ437)

株式会社富永製作所　〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88　営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-0717
仙台営業所 ☎(022)283-0511 FAX(022)283-8355　東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180　関西支店京都 ☎(075)801-0711 FAX(075)801-2083
関西支店大阪 ☎(06)6443-2751 FAX(06)6443-2488　広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606
高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139　福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118
事業所・代理店／全国主要39都市

明日への技術と信頼のサービス
TATSUNO

関東

灯油アンケート調査結果

メリットの認知度は低位

新潟・栃木石油SC連絡会

関東支局（千代田区永田町2-17-14 石油会館）03（3593）5757

新潟や栃木の県石油システム連絡会が、住宅関係のイベント出展時に実施した灯油関係のアンケートを比較すると、一部でそれぞれの地域の実情を反映した結果になったが、自宅の暖房機器は灯油を使用したものが圧倒的に多いことが明らかとなった。一方で灯油の優位性やエコフィールの認知度は低く、灯油復権に向けて、より一層の周知徹底が求められる。

アンケートはこのほど、新潟市内で開催された「日報・住まいのリフォームフェア2016春」や、宇都宮市内で開催された「とちぎ住宅フェア2015」でブース出展し（一部既報）、来場者に対して実施した。

集計の結果、新潟は男性が61%、女性が39%となったのに対し、栃木は男性37%、女性63%となった。年齢構成は、新潟が60代以上が48%、40～60代未満が35%、40代未満が15%だが、栃木は60代以上が25%、40～60代未満が30%、40代未満が32%と来場者の分布傾向が異なっている。

自宅の給湯器で、新潟の場合、構成比は都市ガス57%、灯油29%、電気9%、LP3%の順だが、栃木はLP44%、電気26%、都市ガス15%、灯油14%となった。

自宅の暖房機は、新潟で灯油76%、電気29%、都市ガス19%、LP1%の順で、栃木は灯油51%、電気43%、LP12%、都市ガス6%で、ともに灯油暖房機が圧倒的なシェアを占めている点は共通している。

一方で灯油の特性に関する質問では新潟、栃木ともに年代でばらつきがあった。価格が安価となったことを知っているのは新潟は30～50%だが、栃木は17～64%。灯油のCO_2排出量が少ないことを知っているのは、新潟は0～17%、栃木は0～36%となった。

さらにエコフィールの認知度については、新潟で9～20%、栃木で0～23%といずれも低い値となっており、灯油が暖房機器の中心であるが、優位性に関しては知られていない点が多く、灯油のメリットをより一層アピールする必要がある。

2月軽油価格 74円

前々年比45円超下落

神奈川トラ協調査

神奈川県トラック協会が先ごろ発表した、2月の軽油価格調査（いずれも単位は円／㍑、消費税抜き）によると、単純集計でSSは前年同月比13・8円安の74・0円、ローリーで15・2円安の66・6円、カードだと17・7円安の74・6円となった。

14年比だとSSで45・9円安、ローリーで46・6円安、カードでは45・0円安となっており、原油価格が100㌦を超えていた当時と隔世の感がある。

購入量別だと、30㌔㍑未満でSSは74・3円、ローリーで66・7円、カードで74・6円。30～50㌔㍑未満でSSは74・1円、ローリーで65・8円、カードで75・5円。50～100㌔㍑未満でSSは67・3円、ローリーは67・3円。

支払日別だと、30日未満でSSは74・3円、ローリーは65・5円、カードは75・5円。30～60日未満はSSで73・8円、ローリーで65・8円、カードで73・8円。60日以上はSSで73・6円、ローリーは68・3円、カードは75・0円。

SSとカードがほぼ70円を超えていたのに対し、ローリーはすべて60円台と、割安の価格設定となっている。

神奈川県トラック協会 2月軽油価格調査結果

単純集計（円/㍑、消費税抜き）

SS	ローリー	カード
73.96	66.60	74.61

購入量別

SS	ローリー	カード
30㌔㍑未満		
74.32	66.68	74.56
30～50㌔㍑未満		
74.10	65.75	75.45
50～100㌔㍑未満		
67.33	67.34	

支払日別

SS	ローリー	カード
30日未満		
74.25	65.48	75.49
30～60日未満		
73.81	65.79	73.79
60日以上		
73.55	68.30	74.98

サンオータス 3Q決算

需要増も赤字継続

石油製品価格下落が響く

サンオータス（神奈川県横浜市、北野俊社長・JX系、キグナス系）が先ごろ発表した今第3四半期（15年7月～16年1月）決算によると、原油価格下落による石油製品価格低下や、顧客獲得競争激化などで、売上高は前年同期比15・2%減の244億円、営業利益は1・9億円の赤字（前年同期は3・9億円の赤字）、経常利益は1・7億円の赤字（3・7億円の赤字）、純利益は2・3億円の赤字（3・3億円の赤字）となった。

セグメント別でみると、エネルギー事業（石油製品販売、車検・整備）で、石油製品の売上数量は原油価格下落による需要拡大で、前年同期比7%増と好調に推移したが、ガソリンの単価は前年比で約30円減と急速に低下し、大幅な減収となり、売上高（外部顧客への売上高）は31・9%減の94・6億円、セグメント利益は0・84億円の赤字（0・69億円の赤字）となった。

長きの社会貢献に県から感謝状 茨城

今年も小学生へクリアファイル

茨城石協（宇田川仁一郎理事長）はこのほど、SSの社会貢献事業として取り組む「らかけこみ110番」PRを目的とした、小学校新入学生用のクリアファイルを県へ寄贈した。

今年も贈呈式は県庁舎内で開催。同石協からは布市勝副理事長兼社会貢献対策事業委員長と事務局、県からは小野寺俊教育長が出席した。

同石協は毎年、SSの社会貢献事業「かけこみ110番」の一環として、県内の全小学校1年生を対象にクリアファイルを配布している。ファイルには、「ひばりくんと5つの約束」として、登下校中に不審者に遭遇した時や、体調不良時にSSが緊急避難連絡所となることを記載しているほか、防犯や交通安全、災害安全などのポイントをわかりやすく解説している。

式典では県から10年にわたり、児童の安全や安心確保に貢献したことで、感謝状が贈られた。

布市副理事長は「配布は児童生徒の安全確保を目的に2006年度から継続してきたが、新デザインの物ができたので届けに来た。県内の全小学校には、地元支部長や事務局からから配布している」と述べた。

県から贈られた感謝状を手にする布市副理事長㊨と小野寺教育長

大阪

大阪石協共同事業委員会（鴻野友次郎委員長）は6日、委員会を開き、新年度新規事業として検討してきた「新電力事業」について検討し、今月中にも事業化に着手することで合意した。同事業はすでに正副理事長会で事業化の合意は得ており、スタートすれば近畿圏では初めて電力自由化に対応しSSの運営コスト削減を目指すことになる。

「新電力事業」着手へ

大阪石協共同事業委

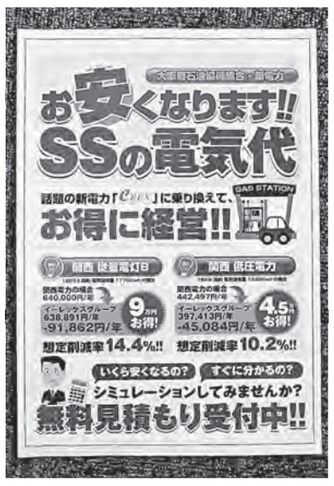
近畿支局（大阪市北区西天満1-4-19 サウスポレストビル5階）06（6362）2917

電気代削減をサポート

4月から始まった電力自由化により、様々な情報が錯綜する中、同石協では新電力会社最大手の1つで実績を持つイーレックスとの提携を模索。その子会社を通じ組合員SSへの斡旋を検討してきた。今年3月には最終的な合意事項が整い、自由化が始まった今月からのスタートに備えてきた。

事業内容は簡単な手続きで既存の電力会社から、イーレックスへの契約変更を行えるようにするもの。これにより、コスト負担はなく低圧電気料金を引き下げることができる。電気の質・安定性が全く変わらずに、電気代を引き下げることが可能となった。例えば年間64万円ほどの電気料金がかかっていた事業者の場合、イーレックスと契約すれば年間9万円程度の電気代削減が試算されている。

同石協では新電力事業として組合員に対し「お得に経営」とアピールした告知チラシを作成、今月中にも組合員へ配布し募集を開始することにしている。



大阪石協が作成した新電力への契約を促すPRチラシ（案）

卸アップに市場即応

価格上昇で需要減懸念 連休商戦が正念場

大阪府内のガソリン価格は仕切り値上げを受け、上昇基調に入っている。大幅なコストアップに市場には連休商戦の需要冷え込みを気にする声もあるが、多くの業者からは「この時期にコストアップ分のかぶりは回避しなければならない」との思いが強く、ガソリン価格で5円以上の値上げをするSSが多い。結果としてセルフSSの平均価格帯は112円以上のSSが増え始めた。

新年度早々の大幅仕切り値上げと諸経費の高騰で運営コストは大幅に上昇している。さらに人件費も大阪府では確実に上昇基調にあり、コストアップへの対応が急がれるのが実情だ。

大阪市の老舗業者は現状について「元売が仕切り値上げをするのは理解できる。ただ時期は悪い。連休商戦までを含めると需要動向が気になる」と指摘する。

また、SS担当責任者は「今年は人件費も相当アップしないと従業員は不足する。最近では大企業よりも賃金を高くしないと人材は集まらないと聞く」と打ち明ける。

仕入れと人件費という運営コスト基礎部分が上昇基調にある中、コストを抑制できる要因は限られているのも実態で、「電力自由化ぐらいしかコストセーブできることが見つからない」とも話す。

また、値上げが需要に影響することを懸念する声も多く、地場業者は「ようやくガソリンの割安感が浸透してきたのに、ここで大幅値上げでは影響する可能性は高い」と訴える。

大型連休商戦は最大10連休にもなり、SSにとっては需要をさらに安定したものにする商戦期との意識も強く、大手業者は「我々だけでは需要増をつくることはできない。元売も需要期だから値上げしても問題ないという姿勢を改める時期に来ている」と警鐘を鳴らしている。

業転上昇 PB反転で露呈する系列内格差

原油安を背景に業転安の状況が続いた大阪府市場だが、ガソリン業転市場は確実に上昇基調に入った。一時1㍑あたり系列仕入れとの格差が10円以上になった時期から、最近では7円未満まで格差は縮小したとみられ、これに伴い各地のプライベートブランドSSのガソリン価格も値上がりしている。4月第2週で業転価格は100円前後（消費税込み）を中心値にした価格帯に入ったとの見方が強い。系列価格は105円から107円（同）とみられ、価格差は5円から7円程度、ほぼ5円程度格差が圧縮した。

府内のPBSSでも100円を超えるガソリン価格が目立ち、一時の90円台価格が姿を消した。格差縮小について系列業者は「それでも依然として納得できるものではない」としながらも、「PBも全く売れていないようだ」と最近の動向について指摘する。

地場業者は「最近ではPBSSの安値よりも系列広域量販SSが安値拡販で集客しているのが目立つ。元売子会社SSが値上げに積極的なのに、なぜ広域SSがコスト転嫁を渋るのかがわからない」という。

新年度に入り需給バランスの均衡を求める声が高まる中、業転市場が上方修正されることには肯定的な声は多いが、一方で系列量販SSの動向に不満を募らせる業者も現れている。

廃タイヤ カーライフサポート 2事業実績も好調！

大阪石協独自の「カーライフサポート事業」と「廃タイヤ回収事業」の今年度実績（速報値）がまとまった。それによると両事業とも好実績を収め、スケールメリットを十分に発揮したことを証明した。

カーライフサポート事業は「不用車引取」「オートオークション出品」「買取代行」「新車販売」「鈑金」などを主力商品として、組合員SSに提供しているが、その年間実績は、不用車引取で219台、オートオークション出品が53台、買取代行が27台、新車販売が8台、鈑金が189台となった。廃タイヤ回収事業も年間回収実績が8万6526本となり、3年連続で前年実績を上回る堅調な伸びを示している。

同石協は今後も独自の協業化に意欲を示すとともに、両事業をさらに拡大していくことにしている。

創業50周年アニバーサリー機 FK-2 TRIBE WASH ZETA FK-2トライブ ウォッシュ ゼータ

洗車で生涯顧客を創りカーケア収益をUPする!

新コーティングシリーズ「FK-2 TRIBE」の高品質な仕上がりを最大限に活用する機能を搭載!
リピーターを拡大し固定客を囲い込む「洗車生涯顧客」の創造を支援します!!

i型オペレーション

これまでの洗車機コーティングにはない最高のツヤと輝きだ!!

ZETA導入店の声
収益増だけでなく、固定化に抜群の効果を発揮していますよ!
ZETAを導入してから、ショー効果を狙ったオプション「トラストリフォーマー」との併用で洗車機収益は右肩上がり! ガラス系コーティングの「プリズムグラスコート」も大好評で固定化にも威力を発揮しています。

新コーティングシリーズ

フッ素系化合物を配合した「FK-2 ハイパー」、ガラス系コーティングの「プリズムグラスコート」を筆頭とした、新コーティングシリーズ「FK-2 TRIBE」。

FK-2 TRIBE WASH ZETA(PRIME仕様)

QRシステムでお客様の「再来店」を促しファミリー会員で「固定化」をする!!

新会員システム、新QRシステム※

カーケア収益確保に繋がる洗車生涯顧客創りをサポートする新会員と新QRシステムを搭載した新型オペレーション!!
※QRシステムはオプションとなります。PRIME仕様は標準装備です。

ZETA導入店の声
新機能を活用した新しい洗車販売戦略を展開中です!
新機能である「ファミリー会員」の導入でおよそ600名の固定客を確保、プリカ販売の時よりも平均客単価がアップしました! 今後はQRシステムも利用して週末に集中しがちな顧客を平日へ分散していきたいと考えています。

Beauty ビューテー株式会社 50th SINCE 1965
■本社 名古屋市港区木場町2番地
TEL 052-692-2101（大代表）
http://www.beauty.gr.jp
ビューテー本社事業所は環境管理に関する国際標準規格ISO14001の認証を取得しています。
洗車機製造部門タケウチテクノは品質管理に関する国際規格ISO9001の認証を取得しています。
E&I Ecology & Innovation
■Network of the Beauty
北海道支店 仙台支店 埼玉支店 東京支店 千葉支店
名古屋支店 岐阜支店 北陸支店 大阪支店 広島支店 九州支店

3月市況概況

ZENSEKI

業転格差は7.6円に

粗利9ヵ月ぶり2桁割れ

3月の原油価格は前月比3・8円高、2ヵ月連続で上昇した。これに伴い、国内はガソリン卸だけが現物、先物、系列仕切りを問わず値上がりした。ガソリン精製マージンの劣化が進んでいたことが背景にあるとみられる。一方、ガソリン小売市況は急速な卸上昇についていけず軒並み悪化。ガソリン小売の全国平均粗利推計は7円となり9ヵ月ぶりの2桁割れで悪化した。

卸　原油2ヵ月連続で値上がり　11ヵ月ぶり　現物安・先物高

国内卸価格のベースとなる中東産原油（FOB）3月価格平均値（トリップ換算）は前月比3・8円上げの25・62円水準、2ヵ月連続で上昇した。ガソリン税などを加算し国内向けガソリン卸値に換算すると81円水準。週決めフォーミュラ連動ベース推計のうち、ガソリン陸上指標連動（京浜仕様・近距離ケース）は93・0円（前月比2円高）、一方、先物連動は93・7円（4・2円高）となり、先物価格が大きく値上がりした。中間3品の陸上指標は灯油41円（4円安）、軽油38・3円（0・9円安）で値下がりした。輸入ガソリン推計値は95・6円（5・1円高）と9ヵ月ぶりに反発。中間3品推計値も灯油40・1円（3・7円高）、軽油38・8円（3・9円高）で値上がりした。

系列仕切りはガソリンが前月比でEMG2円高、JX2・4円高、出光3・6円高、昭和シェル4・8円高といずれも大きく上昇した。中間3品は灯油がJX1円安、出光1・3円高、昭和シェル4円高と大きくばらついた。軽油もJX0・9円安、出光3・1円高、昭和シェル4・1円高で、JXだけ異なる値動きだった。EMG外販およびJX先行から推計した3月のPB玉月平均は87・5円～89・9円の水準。資源エネルギー庁発表の卸価格調査結果の全国平均を一般特約店仕切の平均値としそこから現物指標の平均値（配送料1・5円加算）を引いた、いわゆるガソリンの業転格差は推計7・6円。

売　全47都道府県で粗利幅悪化　小　5円割れも14県に

資源エネルギー庁調査によるレギュラーガソリン小売市況3月の全国平均は前月比0・5円安の112・6円、最低価格は2・3円安の105・3円に値下がりした。一方、安値SSの代表格であるジョイフル本田は0・6円高の98・6円に上昇した。これを受け、ガソリン小売粗利推計は全国平均で前月比3・6円悪化の7円に低下し、9ヵ月ぶりに1桁のマージン幅に落ち込んだ。前月比でみると47都道府県すべてで粗利推計の幅が悪化した。最も落ち込んだ岡山は5・3円悪化となった。一方、前年比では全国平均が2・6円悪化し、秋田、和歌山、沖縄の3県を除く44都道府県でマージン悪化した。特に高知は14・6円も急落、大幅減に陥っている。

粗利推計の10円以下のエリアは39道府県、5円以下でみても14県にまで広がり、急速悪化している。最低水準の高知に至っては計算値であるが0・3円のマイナス、不当廉売状態に陥っている。この粗利推計幅の算定基準としているエネ庁小売市況調査はフルSSも対象に含まれるため、セルフの多い激戦地の実勢値はより低マージンに陥っているとみられる。

軽油の小売全国平均は前月比1・1円安の97・3円に値下がり。粗利推計は前月比1・8円悪化、前年比1・8円悪化の15・8円。また、灯油店頭（トップ当たり）は0・5円安の61円。粗利推計は前月比0・9円悪化、前年比0・8円良化の13・7円。

週決め仕切りコスト・月間推計値（近距離ケースSS届け、消費税別:¥/リットル）※現物推計は陸上現物ベースの計算値

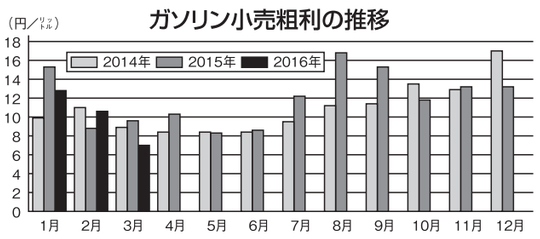
	ガソリン		灯油		軽油		A重油
	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計
12月	101.0	96.5	47.4	40.7	52.6	40.6	45.8
1月	94.6	89.6	38.4	33.1	46.1	37.7	41.2
2月	91.0	89.6	41.4	34.7	39.2	39.8	37.5
3月	93.0	93.7	41.0	36.4	38.3	38.2	37.0
4月最近値	94.1	94.1	37.5	34.9	37.8	34.8	35.5

原油・ガソリン系列仕切り変動幅の推移（前月比）　円/リットル

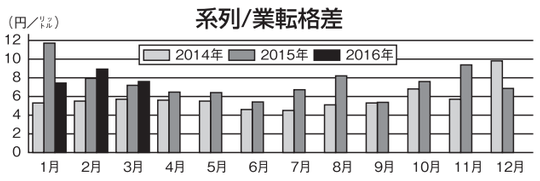
	原油	JX	EMG	出光	昭和シェル
11月	▲2.2	▲3.5	▲2.0	0.3	▲0.7
12月	▲5.8	▲5.9	▲6.6	▲4.9	▲2.7
1月	▲6.4	▲6.5	▲5.9	▲5.8	▲6.3
2月	1.3	▲2.6	▲4.0	0.6	1.8
3月	3.8	2.4	2.0	3.6	4.8

※JX、出光、昭和シェルは公表値、EMGは推計値、原油は中東産原油（円建て）

ガソリン小売粗利の推移



系列/業転格差



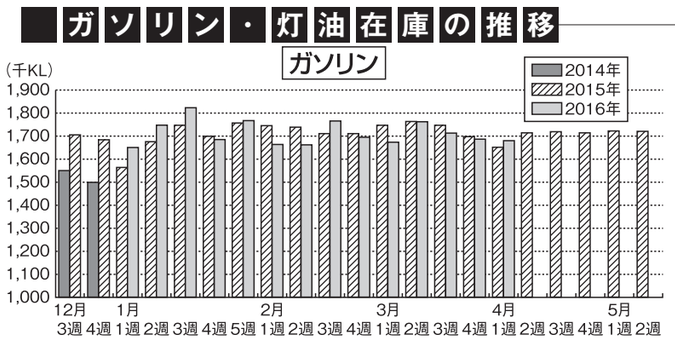
都道府県別小売粗利の推移（3月）

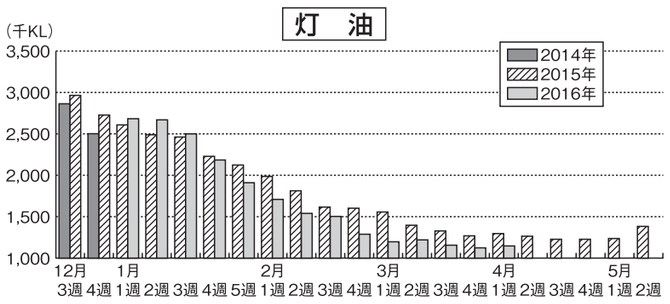
	ガソリン 粗利	ガソリン 前月比	ガソリン 前年比	灯油 粗利	灯油 前月比	灯油 前年比
北海道	5.6	▲1.9	▲3.5	11.9	▲0.7	2.8
青森	6.0	▲3.7	▲2.5	6.5	▲1.1	▲0.6
岩手	5.5	▲2.7	▲4.8	3.6	▲0.8	▲4.7
宮城	6.6	▲2.8	▲2.2	8.8	▲1.0	1.5
秋田	7.6	▲2.1	0.5	6.6	▲0.2	▲1.3
山形	9.3	▲4.6	▲2.7	9.2	▲0.8	▲1.3
福島	7.3	▲3.7	▲2.8	8.0	▲1.1	▲3.3
茨城	2.0	▲3.7	▲6.3	6.1	▲0.9	▲2.0
栃木	4.4	▲3.4	▲3.4	10.7	▲0.8	▲0.8
群馬	2.1	▲2.7	▲6.8	10.6	▲1.2	0.3
埼玉	3.6	▲3.5	▲3.0	11.0	▲0.8	0.0
千葉	5.5	▲4.0	▲1.4	14.3	▲0.8	1.2
東京	10.0	▲3.4	▲2.4	22.5	▲0.9	1.3
神奈川	5.0	▲3.0	▲2.7	17.3	▲1.0	3.3
新潟	4.9	▲3.9	▲3.4	11.5	▲1.2	▲1.1
長野	9.2	▲3.9	▲2.4	10.1	▲1.5	▲0.0
山梨	5.0	▲4.0	▲4.0	11.4	▲1.3	1.4
静岡	7.7	▲3.6	▲3.1	17.2	▲1.0	0.6
愛知	7.1	▲3.0	▲2.0	16.4	▲1.3	▲0.3
岐阜	10.8	▲3.6	▲1.9	11.6	▲0.8	0.1
三重	6.5	▲3.3	▲1.5	12.3	▲0.7	1.4
富山	9.2	▲3.7	▲0.1	11.8	▲0.7	▲2.8
石川	3.3	▲4.4	▲4.3	5.5	▲1.2	▲1.0
福井	6.6	▲3.4	▲1.9	9.7	▲1.8	▲3.6
滋賀	7.1	▲3.2	▲2.0	13.2	▲0.6	0.0
京都	10.6	▲3.7	▲1.2	19.1	▲0.9	0.2
奈良	7.8	▲3.4	▲2.2	12.0	▲0.6	1.0
大阪	6.6	▲4.1	▲1.4	14.9	▲0.7	0.4
兵庫	5.7	▲4.3	▲2.6	12.6	▲1.0	▲0.6
和歌山	8.8	▲3.3	0.4	11.9	▲0.6	▲1.4
鳥取	5.9	▲4.5	▲2.4	12.3	▲1.2	▲1.0
島根	9.4	▲4.2	▲0.8	16.4	▲1.3	2.6
岡山	4.9	▲5.3	▲1.0	11.0	▲1.6	1.2
広島	6.8	▲4.2	▲2.5	13.8	▲1.2	▲0.9
山口	4.8	▲4.3	▲3.5	13.3	▲0.7	▲1.4
徳島	4.8	▲3.4	▲2.1	8.1	▲1.0	▲2.1
香川	4.2	▲3.1	▲9.5	7.8	▲0.5	▲1.0
愛媛	8.2	▲3.9	▲2.3	13.9	▲1.1	▲0.4
高知	▲0.3	▲4.8	▲14.6	10.5	▲1.3	▲3.3
福岡	8.3	▲3.7	▲1.2	12.0	▲0.8	▲1.2
佐賀	12.3	▲4.2	▲1.5	17.1	▲1.0	▲2.6
長崎	14.6	▲4.1	▲1.7	21.8	▲1.0	2.7
熊本	4.7	▲3.7	▲3.8	11.2	▲1.0	0.0
大分	12.2	▲3.7	▲0.2	17.6	▲0.8	2.9
宮崎	7.1	▲4.5	▲3.7	17.4	▲1.5	▲0.2
鹿児島	14.7	▲4.1	▲1.1	20.3	▲1.0	0.2
沖縄	15.8	▲2.6	0.6	21.9	1.1	▲1.3
全国	7.0	▲3.6	▲2.6	13.7	▲0.9	0.8

※小売粗利推計:エネ庁公表週市況月平均値ー同月卸価格（本紙推計）

3 monthly data file 2016

ガソリン・灯油在庫の推移





地域別指標

卸価格、軽油は税抜き　（単位：￥／L）

	ガソリン 2月卸	ガソリン 3月小売	灯油 2月卸	灯油 3月小売	軽油 2月卸	軽油 3月小売
北海道	94.7(-1.3)	112.2(1.8)	41.9(1.5)	58.7(-0.1)	44.5(-2.3)	96.6(1.6)
青森	93.8(-1.8)	111.3(-0.5)	42.1(2.2)	52.9(-0.8)	43.8(-2.8)	93.7(-1.7)
岩手	95.5(-0.3)	112.5(0.5)	45.9(4.3)	53.9(-0.4)	45.0(-2.4)	95.2(-0.1)
宮城	92.5(-2.7)	110.5(0.4)	41.0(1.6)	54.2(-0.6)	41.0(-4.0)	93.3(-1.2)
秋田	94.1(-2.2)	113.4(1.3)	44.1(1.5)	55.2(0.2)	43.5(-3.6)	101.7(-0.6)
山形	93.3(-2.0)	114.1(-1.8)	41.1(1.7)	54.9(-0.3)	44.4(-1.9)	103.4(-1.6)
福島	94.3(-1.9)	113.1(-0.6)	42.6(1.3)	55.1(-0.7)	43.7(-3.4)	95.3(-0.9)
茨城	95.9(-0.3)	109.1(-0.7)	45.0(2.1)	55.8(-0.4)	46.5(-1.2)	92.1(-1.7)
栃木	94.9(-1.9)	110.5(-0.4)	43.4(1.4)	58.9(-0.4)	44.3(-2.8)	96.6(-1.2)
群馬	96.5(-0.6)	110.1(0.7)	43.6(0.1)	59.0(-0.9)	43.6(-3.9)	96.2(-0.7)
埼玉	92.7(-1.6)	107.4(-0.4)	42.7(1.8)	58.5(-0.4)	42.2(-3.1)	91.8(-1.6)
千葉	93.0(-1.3)	109.7(-1.0)	42.9(2.5)	62.3(-0.4)	43.1(-2.0)	93.4(-1.5)
東京	94.5(-0.7)	116.2(-0.3)	43.4(2.1)	71.6(-0.5)	43.5(-2.6)	100.8(-0.9)
神奈川	93.8(-0.9)	110.2(0.3)	43.3(2.0)	65.9(-0.7)	44.2(-1.8)	94.5(-0.8)
新潟	96.0(-0.6)	112.2(-1.0)	44.4(2.0)	60.7(-0.9)	45.2(-2.9)	98.7(-1.5)
長野	95.2(-1.2)	116.0(-0.9)	43.2(0.9)	58.0(-1.2)	45.1(-2.4)	99.8(-0.9)
山梨	95.4(-0.9)	111.7(-1.1)	44.5(1.4)	60.7(-1.0)	45.4(-2.0)	94.8(-2.1)
静岡	94.3(-1.6)	113.4(-0.6)	43.3(1.4)	65.8(-0.7)	43.6(-3.4)	97.8(-1.1)
愛知	92.4(-1.7)	111.0(0.3)	41.9(1.6)	63.5(-0.8)	42.1(-2.8)	93.9(-0.6)
岐阜	91.7(-2.4)	114.1(-0.5)	41.7(2.3)	58.1(-0.4)	41.0(-4.5)	96.9(-0.8)
三重	93.8(-2.3)	111.7(-0.2)	43.2(1.1)	60.5(-0.2)	43.4(-3.6)	98.8(-0.7)
富山	94.7(-1.4)	115.4(-0.8)	44.0(2.4)	60.7(-0.3)	44.8(-2.3)	99.4(-0.7)
石川	95.3(-1.7)	109.8(-1.4)	44.9(1.2)	54.9(-0.8)	45.6(-2.2)	94.4(-1.8)
福井	96.9(-0.5)	115.0(-0.5)	46.2(3.7)	60.7(-1.7)	47.2(-0.5)	100.5(-2.4)
滋賀	92.6(-2.5)	111.0(-0.1)	42.0(-)	60.1(-0.1)	43.1(-3.7)	92.6(-0.2)
京都	93.9(-1.7)	116.2(-0.6)	43.8(2.3)	68.5(-0.4)	43.0(-3.3)	99.6(-0.9)
奈良	93.5(-2.5)	112.8(-0.3)	42.7(1.5)	59.6(-0.1)	42.3(-3.6)	98.0(-0.6)
大阪	92.2(-2.6)	109.9(-1.2)	42.4(2.0)	62.4(-0.2)	41.7(-3.7)	95.6(-1.4)
兵庫	94.1(-1.0)	110.9(-1.5)	43.3(2.4)	60.8(-0.7)	43.7(-2.5)	97.3(-1.1)
和歌山	95.2(-1.1)	115.7(-0.2)	44.3(1.2)	61.3(-)	44.6(-2.7)	97.2(-0.6)
鳥取	94.1(-1.7)	111.1(-1.8)	44.0(1.7)	61.3(-0.8)	46.0(-1.5)	98.7(-1.9)
島根	95.5(-1.5)	116.5(-1.3)	44.4(1.2)	66.1(-1.0)	44.9(-3.3)	104.2(-1.7)
岡山	93.8(-1.5)	110.1(-2.2)	43.1(1.7)	58.8(-1.3)	43.4(-2.9)	93.1(-2.6)
広島	94.1(-1.3)	112.3(-1.2)	43.2(1.3)	62.1(-0.7)	43.6(-2.9)	99.5(-1.4)
山口	94.3(-1.0)	110.5(-1.3)	43.1(1.7)	61.4(-0.3)	43.7(-3.2)	99.2(-1.8)
徳島	93.6(-2.8)	109.7(-0.2)	44.6(4.3)	57.5(-0.5)	42.5(-5.5)	91.2(-2.4)
香川	93.0(-1.7)	108.4(0.1)	43.3(2.0)	55.8(0.1)	43.0(-3.2)	93.5(-0.6)
愛媛	93.9(-1.5)	113.6(-0.9)	42.6(0.7)	61.5(-0.7)	43.5(-3.0)	95.5(-1.4)
高知	95.1(-1.2)	105.3(-2.3)	43.9(1.8)	59.2(-0.9)	44.8(-2.4)	89.4(-1.5)
福岡	93.7(-1.3)	113.5(-0.7)	43.4(2.2)	60.3(-0.3)	45.1(-0.7)	96.4(-1.3)
佐賀	92.3(-1.9)	116.2(-1.3)	42.2(3.1)	64.6(-0.5)	41.2(-3.6)	101.6(-1.0)
長崎	94.2(-1.9)	120.7(-1.2)	42.1(0.8)	69.5(-0.7)	43.7(-2.9)	107.2(-2.0)
熊本	95.8(-0.5)	111.9(-0.7)	44.4(1.4)	60.5(-0.6)	46.5(-0.9)	96.2(-0.9)
大分	92.9(-1.2)	116.8(-0.7)	41.8(1.2)	64.6(-0.4)	41.7(-3.2)	100.0(-1.2)
宮崎	93.0(-1.1)	111.4(-1.7)	41.9(3.5)	64.5(-1.2)	40.7(-4.0)	100.4(-1.4)
鹿児島	95.2(-1.2)	122.1(-1.1)	44.4(1.4)	70.4(-0.6)	45.4(-1.7)	106.9(-1.9)
沖縄	89.8(-0.4)	117.4(0.6)	45.5(8.6)	73.1(1.5)	43.8(-1.7)	101.1(0.4)
全国	94.1(-1.5)	112.6(-0.5)	43.2(1.9)	61.0(-0.5)	43.7(-2.8)	97.3(-1.1)

価格指標

	国内指標FOB ($/B)	国内指標FOB (¥/L)	原油CIF ($/B)	原油CIF (¥/L)	SS店頭価格 ガソリン	SS店頭価格 灯油	SS店頭価格 軽油	卸価格（軽油は税抜き） ガソリン	卸価格 灯油	卸価格 軽油	先物最期近物 ガソリン	先物 灯油	先物 軽油
	($/B)	(¥/L)	($/B)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)	(¥/L)
14年3月	104.31	67.76	110.17	70.89	158.5	103.5	138.8	142.0	86.9	86.4	80.37	79.21	78.57
15年3月	54.88	41.90	54.76	41.28	140.0	84.4	119.5	120.0	65.2	64.1	58.03	55.31	54.76
4月	58.60	44.45	56.17	42.36	139.3	84.0	118.9	118.7	62.6	63.1	58.95	55.23	55.51
5月	63.58	48.69	59.35	44.60	141.6	84.7	120.6	122.8	66.2	66.2	63.17	58.71	58.61
6月	61.78	48.48	64.05	49.57	144.2	84.9	122.6	124.9	67.5	68.3	64.84	59.37	59.80
7月	56.17	43.89	63.80	49.36	144.0	85.5	122.4	121.1	64.1	64.7	60.10	54.76	55.31
8月	47.69	37.26	59.03	46.10	138.4	83.0	117.4	115.0	58.2	58.5	53.50	49.11	49.13
9月	45.37	34.60	51.27	38.99	135.2	80.4	113.7	113.5	55.0	53.8	50.40	48.20	46.12
10月	45.84	34.91	47.92	36.16	133.9	78.6	112.3	112.2	54.6	53.2	49.06	49.02	45.78
11月	41.69	32.40	47.45	36.21	131.7	76.1	110.8	109.0	55.0	55.8	47.36	47.33	43.81
12月	34.59	26.73	43.52	33.57	125.8	72.4	107.8	102.9	49.2	53.2	42.46	40.55	39.77
16年1月	26.79	20.11	36.94	27.77	117.9	65.5	102.4	95.6	41.3	46.5	34.40	31.60	34.82
2月	29.30	21.39	30.38	22.42	113.1	61.6	98.3	94.1	43.7	43.2	33.77	32.73	38.39
3月	35.13	25.20	-	-	112.6	61.0	97.3	☆97.7	☆45.1	☆45.3	36.55	33.66	36.29
最近値	34.93	27.71	31.37	22.34	114.6	61.4	98.3	☆101.5	☆45.4	☆46.6	38.98	33.89	33.80

☆は本紙推計

ガソリン関連指標

（単位は全て￥／ＫＬ）

	精製卸の総コスト（海上：ＳＳ渡し格差調整済み） 東商取	京浜業転	ボトム仕切	全国平均	全国最低	卸指標別の小売りの粗利（全国平均小売価格比） 東商取	京浜業転	ボトム仕切	全国平均	全国最低
13年3月	12,740	12,850	14,160	15,270	13,870	13,700	13,580	8,510	11,160	8,800
14年3月	11,650	13,350	17,580	17,780	16,380	15,040	13,340	5,230	8,910	6,430
15年3月	12,330	15,720	21,700	21,670	19,570	18,930	15,540	5,450	9,590	7,580
4月	16,600	17,680	20,600	21,470	18,870	14,130	13,050	5,520	10,260	7,250
5月	14,960	19,110	22,190	22,010	20,610	15,360	11,210	2,780	8,310	4,360
6月	14,940	17,900	20,840	19,870	17,970	13,510	10,550	2,960	8,580	5,830
7月	16,820	11,760	13,350	16,280	14,880	11,670	16,730	10,930	12,210	9,400
8月	16,670	10,980	9,220	14,770	12,470	11,230	16,920	13,550	13,130	10,300
9月	16,700	16,810	16,430	19,900	18,500	14,840	14,730	10,360	11,640	8,290
10月	16,260	15,260	16,250	21,260	19,460	16,810	17,810	11,840	11,810	8,630
11月	14,610	13,800	13,270	17,750	16,250	16,080	16,890	12,120	12,940	9,140
12月	15,420	10,780	9,970	14,160	12,160	12,350	16,990	12,220	13,610	10,030
16年1月	16,190	7,100	8,940	12,530	11,030	9,930	19,020	11,720	13,590	6,930
2月	14,760	13,300	12,130	17,650	15,250	13,540	14,990	11,070	10,640	7,950
3月	12,840	14,480	12,770	19,970	17,570	13,670	12,030	6,970	☆6,540	☆2,177
最近値	14,730	15,300	11,300	20,490	18,090	10,330	9,760	5,890	☆4,570	☆▲900

☆は本紙推計

需給指標

（単位は全て千ＫＬ、太字＝100）

	燃料油販売量(ガソリン)	（灯油）	（軽油）		原油処理量		ガソリン在庫		灯油在庫	
12年度	197,770	56,207	18,884	33,391	12月4週	3,791.4	100.1%	1,689.7	99.7%	2,729.0	209.5%
13年度	193,520	55,419	17,894	34,079	1月1週	3,862.5	102.6%	1,655.2	97.7%	2,681.2	205.8%
14年度	182,951	52,975	16,662	33,583	2週	3,948.7	104.8%	1,751.5	103.4%	2,653.6	203.7%
15年3月	16,647	4,440	1,810	2,900	3週	3,924.8	104.2%	1,826.9	107.8%	2,501.7	192.0%
4月	14,943	4,282	1,026	2,745	4週	3,861.8	102.5%	1,689.3	99.7%	2,183.2	167.6%
5月	13,676	4,359	534	2,644	5週	3,787.9	100.6%	1,773.8	104.7%	1,905.6	146.3%
6月	13,223	4,194	473	2,808	2月1週	3,902.9	103.6%	1,668.7	98.5%	1,714.5	131.6%
7月	14,153	4,767	441	2,779	2週	3,902.1	103.6%	1,663.3	98.2%	1,536.9	118.0%
8月	14,763	5,088	471	2,800	3週	3,892.0	103.3%	1,769.0	104.4%	1,509.3	115.9%
9月	14,170	4,364	666	2,839	**4週**	**3,766.1**	**100%**	**1,694.3**	**100%**	**1,302.7**	**100%**
10月	14,543	4,413	1,016	2,987	3月1週	3,804.6	101.0%	1,676.8	99.0%	1,205.9	92.6%
11月	14,489	4,274	1,416	2,691	2週	3,838.9	101.9%	1,766.4	104.3%	1,222.6	93.9%
12月	17,639	4,744	2,554	3,006	3週	3,882.5	103.1%	1,713.0	101.1%	1,167.6	89.6%
16年1月	16,514	4,127	2,741	2,494	4週	3,886.9	103.2%	1,687.7	99.6%	1,127.1	86.5%
2月	16,162	4,045	2,593	2,805	4月1週	3,769.9	100.1%	1,682.3	99.3%	1,145.0	87.9%

大量使いにうれしいお買得価格!!
洗車タオル

人気No.1 手のひらサイズR型
●丈夫で長持ち
●吸水性UP
600枚以上1枚あたり（税別、送料込）
¥87
サイズ:約34cm×48cm 重さ:180匁(約56g)
カラー:白・青・ピンク・黄色 素材:綿100%

マイクロファイバー
●抜群の吸水性 ●すぐれた耐久性
●クルマにキズがつきにくい
600枚以上1枚あたり（税別、送料込）
※但し、沖縄・離島は送料別途
¥91
サイズ:約30cm×48cm 重さ:約38g カラー:白・青・ピンク・黄色
素材:ポリエステル80%・ポリアミド20%

高級マイクロファイバー
●ワックスやコーティング仕上げに最適
600枚以上 1枚あたり（税別、送料込）
¥120
サイズ:約40cm×40cm 重さ:約61g
カラー:白・青・赤・黄色
素材:ポリエステル80%・ポリアミド20%
※60枚以上、10枚単位で受注可能
※60枚以上は送料込（但し、沖縄・離島は送料別途）

110匁タオル（グリーン）
●車内拭きに適したサイズ
●毛羽が出にくい
500枚以上 1枚あたり（税別、送料込）
¥58
サイズ:約33cm×40cm
重さ:110匁（約34g）
カラー:グリーンのみ 素材:綿100%
※ご注文は 100 枚以上、100 枚単位
※500 枚以上は送料込（但し、沖縄・離島は送料別途）

手のひらサイズ140匁
●女性でも絞りやすい
●洗車、窓拭きに最適
600枚以上 1枚あたり（税別、送料込）
※但し、離島は送料別途
¥70
サイズ:約34cm×43cm
重さ:140匁（約44g）
カラー: 白・青・ピンク色 素材:綿100%

手のひらサイズ200匁
●手触りバツグンのボリューム感
600枚以上 1枚あたり（税別、送料込）
¥88
サイズ:約34cm×48cm
重さ:200匁（約62g）
カラー:白・青・ピンク・黄色 素材:綿100%

ニューカーウォッシュタオル
●強度あり、210 匁
●毛羽が出にくい
600枚以上 1枚あたり（税別、送料込）
※但し、沖縄・離島は送料別途
¥102
サイズ:約37cm×40cm
重さ:210匁（約65g）
カラー:白・青・ピンク・黄色 素材:綿100%

※ご注文単位は１色６０枚。１８０枚以上ご注文の場合、送料無料（高級マイクロ・110匁タオルは除く）。

液晶保護シート 好評発売中

サンプルご希望の方や商品の詳細についてのお問い合わせは、最寄りの組合または全国石油業共済協同組合連合会へ 03-3593-5841

SSパートアルバイト専用傷害プラン
（SSで働くパートアルバイト従業員の皆様が仕事中や通勤途中にケガをされたときに備える傷害総合保険）

補償内容と掛金例

補償内容の一例：100万円コースの場合　職種級別A級　就業中のみの危険補償特約セット

通院保険金	入院保険金	手術保険金	死亡保険金	後遺障害保険金
1日1,000円	1日1,500円	入院中の手術：15,000円 外来の手術　：7,500円	100万円	4万円～100万円

★他に200万円コース、300万円コースがあります。

死亡保険金、後遺障害保険金は合計して保険期間を通じ、死亡・後遺障害保険金額を限度とします。

100万円コース	1名あたり掛金	保険期間
27年度	2,280円 （保険料1,580円+制度運営費700円）	平成27年8月1日から 平成28年8月1日まで/1年間

★制度運営費とは、この保険制度の運営上必要な費用（事務手続費用等）に充当するための費用です。

集金中の交通事故によるケガ

タイヤ交換作業中のケガ

制度の特長

●掛金が割安　団体割引（25%）・過去の損害率による割引（5%）の適用で割安掛金で加入できます。

●手続きが簡単　パート・アルバイト従業員の総人数での加入申し込みとなります。加入後に人数に変更がなければ届け出は不要です。加入の際、名簿の提出は不要ですが、名簿の備え付けが必要です。

●天災危険にも対応　地震・津波・噴火が原因のケガも補償されるプランもご用意しています。

問い合わせ先（保険会社等の相談・苦情・連絡窓口）
●取扱代理店　株式会社ゼンセキ　TEL 03-3593-5800 ：FAX 03-3597-1712
〒100-0014 東京都千代田区永田町2－17－14
●引受保険会社　損害保険ジャパン日本興亜株式会社 企業営業第六部第一課
TEL 03-3231-4177 ：FAX 03-3231-9909（受付時間：平日の9時から17時まで）
〒103-8255 東京都中央区日本橋2－2－10
「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は、損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併して誕生した会社です。

◇この広告は概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店までお問い合わせください。　（SJNK15-06613 平成27年8月17日）